

川越市プレミアム付き地域商品券事業

補助事業成果報告書（概要版）



平成24年3月

川越商工会議所

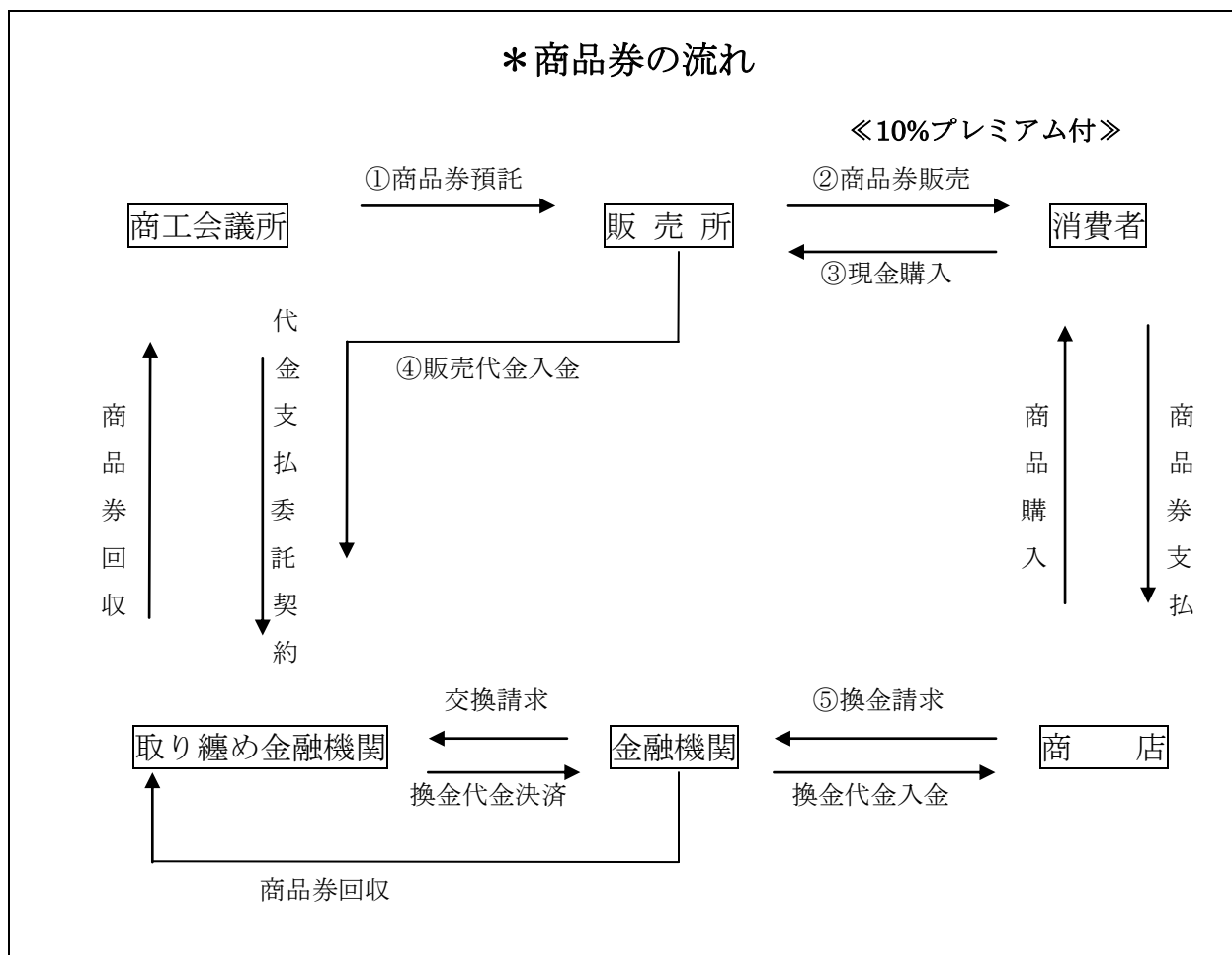
目 次

1 補助対象事業の実施状況	
(1) 事業概要	1
(2) 取扱店の状況	2
(3) 使用状況	4
(4) 収支報告書	5
2 アンケート	
(1) 取扱店アンケートの回答結果	7
(2) 利用者アンケートの回答結果	10
3 成果について	
(1) 今後の課題	14
(2) その他の効果等	14
4 統括	14

1 補助対象事業の実施状況

(1) 事業概要

- ・事業名称 川越市プレミアム付き地域商品券事業
- ・発行団体 川越商工会議所・川越商店街連合会
- ・発行日 平成23年9月1日(木)
- ・有効期間 平成23年9月1日(木)～平成23年12月15日(木)
- ・換金期間 平成23年9月5日(月)～平成24年1月20日(金)
- ・発行総額 3億3,000万円
- ・発行券 1冊10,000円(1,000円×8枚・500円×6枚)
A券(共通券)8枚・B券(専用券)6枚
- ・発行冊数 30,000冊
- ・購入限度額 10万円(1人あたり)
- ・使用限度額 10万円(1回あたり)
- ・換金手数料 取扱事務手数料1%換金差引徴収
(1枚 1,000円券990円・500円券495円で換金)



(2) 取扱店の状況

商品券の取扱店舗の対象は、地域商業の活性化という事業の趣旨により、川越市内に店舗を有し、直接消費者に商品やサービスを提供する市内全事業者を対象に取扱店を募集しました。最終的に372店舗の申込みで、平成19年6月1日現在の商業統計調査の市内小規模店舗数2,123店舗に対しておよそ18%の参加率となりました。取扱店372店舗のうち、売場面積1,000㎡未満の小売店舗は346店舗で、全体の93%を占め、大型店舗は26店舗6.98%であった。

また、商店街別の取扱店舗数では、川越市角栄商店街振興組合・川越新富町商店街振興組合・川越駅東口商店会・川越一番街商業協同組合、大正浪漫夢通り商店街振興組合等、法人化などの連携の強い商店街の参加店舗数が比較的多い傾向となっております。

店舗規模別内訳

	加盟店数	割合
小型店	346店舗	93%
大型店	26店舗	7%
合計	372店舗	100%

商店街別内訳

商店街名	加盟店数	割合
清水町中央通り商店会	5店舗	1.34%
新河岸駅中央商栄会	4店舗	1.08%
並木通り商店街	5店舗	1.34%
藤間商栄会	2店舗	0.54%
川越市角栄商店街(振)	39店舗	10.48%
つつじ通り商栄会	4店舗	1.08%
新宿・旭町商栄会	4店舗	1.08%
川越駅東口商店会	22店舗	5.91%
川越新富町商店街(振)	34店舗	9.14%
川越サンロード商店街(振)	17店舗	4.57%
中原町商店会	8店舗	2.15%
アトレテナント会	13店舗	3.49%
八幡通り商店会	0	0
川越西口商店街	2店舗	0.54%
川越一番街(協)	19店舗	5.11%
大正浪漫夢通り商店街(振)	19店舗	5.11%

立門前商栄会	5 店舗	1. 3 4 %
仲町商店街	1 0 店舗	2. 6 9 %
松江二商店会	1 店舗	0. 2 7 %
川越名店街	1 4 店舗	3. 7 6 %
元町一丁目商和会	3 店舗	0. 8 1 %
川越菓子屋横丁会	3 店舗	0. 8 1 %
鐘つき堂商店会	3 店舗	0. 8 1 %
喜多院不動通り商店街	1 6 店舗	4. 3 0 %
中央通り商店街	4 店舗	1. 0 8 %
中央通り二丁目商店会	3 店舗	0. 8 1 %
広小路商栄会	2 店舗	0. 5 4 %
連雀町繁栄会	6 店舗	1. 6 1 %
六栄会	4 店舗	1. 0 8 %
商連未加入(会議所会員)	6 4 店舗	1 7. 2 0 %
商連未加入(会議所非会員)	1 1 店舗	2. 9 6 %
大型店	2 6 店舗	6. 9 9 %
合計	3 7 2 店舗	1 0 0 %

(3)使用状況

発行総額 3 億 3 千万円のうち、取扱店で使用后、換金請求された商品券は 3 億 2,855 万 8 千 500 円で率にして、99.56%であった。

店舗規模別の使用状況では、売場面積 1,000 m²未満の小型店での使用割合は全体の 51.79%と高く、B 券（小型店専用券）を設けた効果がうかがわれる。

また、商店街別の使用状況では、参加店舗数が多い商店街での使用割合が高い傾向にある。

販売・換金状況

	枚数	金額
販売（発行枚数）	420,000 枚	330,000,000 円
換金枚数	417,797 枚	328,558,500 円
未換金	2,203 枚	1,441,500 円
換金率	99.48%	99.56%

店舗規模別内訳

	使用金額	割合
小型店（A 券）	80,936,000 円	24.63%
小型店（B 券）	89,238,500 円	27.16%
大型店	158,384,000 円	48.21%
合計	328,558,500 円	100%

	使用枚数	割合
小型店（A 券）	80,936 枚	19.37%
小型店（B 券）	178,477 枚	42.72%
大型店	158,384 枚	37.91%
合計	417,797 枚	100%

	使用枚数	割合
A 券（大型店＋小型店）	239,320 枚	57.28%
B 券	178,477 枚	42.72%
合計	417,797 枚	100%

(4)収支報告書

実施団体（川越商工会議所・川越商店街連合会）の実績報告書では、川越市プレミアム付き地域商品券事業の成果及び収支決算は次の通りです。

1. プレミアム付き地域商品券事業は、市内活性化対策として市内経済的波及効果がありました。
2. 東日本大震災後の低迷していた市内商店街への顧客誘致と需要喚起を図り、取扱商品の販売促進が実現しました。
3. 短期間での高額な発行額により、各店の売上効果が実現されました。
4. A券（共通券）・B券（専用券）を発行したことにより、小型店と大型店の比率（換金率）が同等になりました。（A券・B券 51.79% A券・大型店のみ 48.21%）
5. 換金率が 99.48%
6. B券を 500円券としたことで、前回より多くの小型店での使用がありました。
7. 早くからの事業の取り組みと PR 効果により、前回より約 2 週間早く商品券が完売しました。

決算の状況

収入

区 分	金 額
商品券販売額	300,000,000 円
市補助金	34,868,954 円
換金手数料収入	3,285,585 円
登録料収入	223,644 円
雑収入	9,401 円
負担額	1,624,036 円
合 計	340,011,620 円

支出

区 分	金 額
商品券換金額	328,558,500 円
商品券印刷費	1,491,000 円
人件費	2,233,589 円
広告宣伝費	1,238,605 円
通信費	583,246 円
印刷費	232,852 円
消耗品費	215,753 円

取扱手数料	3,772,690 円
換金経費	558,780 円
商品券関係費	1,103,325 円
雑費	23,280 円
合計	340,011,620 円

2 アンケート

(1)取扱店アンケートの回答結果

商品券使用期間終了後、取扱加盟店全 372 店舗に対し郵送によるアンケート調査を実施した結果、162 事業所（回答率 43%）より回答がありました。各店舗でどの程度商品券が使われたかに関する設問では、売上に占める商品券の使用割合 5%未満が多数を占め、商品券は幅広い業種の取扱店で使用されていました。食料品を扱う店舗での使用割合が比較的高い傾向があります。また、家電製品、自転車などの耐久消費財を取り扱う店舗での使用割合が高いところもあり、一定の効果があつたこともうかがえます。

商品券の効果に関する設問では、「新規の顧客獲得」が 21.6%、「顧客とのコミュニケーション強化」が 20.6%、「売上増加」が 16.7%、「商店街の連携強化」が 14.2%という効果が挙げられています。一方、「効果なし」は 21.6%、「回答なし」は 3%になり、全体の 4分の1の店舗が効果を感じないという結果になりました。

また、商品券の有効期間については、「ちょうどよい」が 71.6%、「短い」が 14.8%、「長い」が 7.4%の回答がでました。

発行券に関しては「A 券を増やす」が 9%、「B 券を増やす」が 17%、「ちょうど良い」が 62%という結果になりました。

今後このような事業を実施された場合、取扱店として参加したいかどうかの質問に対して、「参加したい」64%、「参加したくない」3%、「どちらともいえない」が 25.9%という結果になりました。

前回（平成 21 年度）と比較すると、「売上増加」が 4.7%増、「効果なし」が 6.4%減、「今後も参加したい」が 12.8%増、「参加したくない」が 5%減、「どちらともいえない」が 8.7%減という結果になりました。

(4) 発行券 (A 券共通券・1000 円/8 枚・B 券専用券・500 円/6 枚) はどうですか？

- A 券を増やす B 券を増やす ちょうど良い
その他 (具体的に： _____)

3. 期間中の売上金額について伺います。

(金額は概算で結構です。)

9 月売上額	10 月売上額	11 月売上額	12 月売上額
円	円	円	円

4. 同様な事業が実施された場合、また取扱店として参加したいと思いませんか？

- 参加したい 参加したくない どちらとも言えない

今回の商品券に関してご意見がありましたらご記入ください。

--

※ ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒にて、平成 24 年 1 月 28 日迄にご返送ください。

(2)利用者アンケートの回答結果

実施方法：市のホームページでアンケートを募集

募集期間：平成24年1月25日から平成24年2月15日まで

回答結果：下記のとおり

プレミアム付き地域商品券「わくわく川越商品券」

利用者アンケート回答結果（アンケート数＝34）

設問1 プレミアム付き地域商品券「わくわく川越商品券」を何でお知りになりましたか。（複数回答可）

- ア 市広報紙（広報川越）
- イ 新聞の折り込みチラシ
- ウ 地域情報紙
- エ 加盟店・公共施設等に提示されたポスター・チラシ
- オ 市等のホームページ
- カ 自治会回覧
- キ その他（具体的にご記入ください）

【回答結果】

回答件数は、50件。内訳は下記のとおりである。

- ア 市広報紙（広報川越）・・・28件（56%）
- イ 新聞の折り込みチラシ・・・3件（6%）
- ウ 地域情報紙・・・0件（0%）
- エ 加盟店・公共施設等に提示されたポスター・チラシ・・・8件（16%）
- オ 市等のホームページ・・・8件（16%）
- カ 自治会回覧・・・2件（4%）
- キ その他（具体的にご記入ください）・・・1件（2%）

なお、「キ その他」の1件は、川越ケーブルテレビ。

設問2-1 商品券によって期間中（9月～12月）のあなたの消費行動は例年と比べてどのような変化がありましたか？

（1）お買い物のお店等に変化はありましたか？

- ア 市外より市内で買い物をする機会が多くなった。
- イ 大型店より地域の商店街で買い物をする機会が多くなった。
- ウ 商品券取扱加盟店で買い物をする機会が多くなった。
- エ 変化なし。
- オ その他（具体的にご記入ください）

【回答結果】

回答件数は、34件。内訳は下記のとおりである。

- ア 市外より市内で買い物をする機会が多くなった。・・・5件（15%）
 - イ 大型店より地域の商店街で買い物をする機会が多くなった。・・・0件（0%）
 - ウ 商品券取扱加盟店で買い物をする機会が多くなった。・・・16件（47%）
 - エ 変化なし。・・・12件（35%）
 - オ その他（具体的にご記入ください）・・・1件（3%）
- なお、「オ その他」の1件は、「高級店に行ってみた」。

設問2-2 商品券によって期間中（9月～12月）のあなたの消費行動は例年と比べてどのような変化がありましたか？

（2）あなたの消費支出額に変化はありましたか？

- ア 増加した。
- イ 変わらなかった。
- ウ プレミアム分節約することができた。
- エ その他（具体的にご記入ください）

【回答結果】

回答件数は、34件。内訳は下記のとおりである。

- ア 増加した。・・・10件（29%）
- イ 変わらなかった。・・・14件（42%）
- ウ プレミアム分節約することができた。・・・10件（29%）
- エ その他（具体的にご記入ください）・・・0件（0%）

設問2-3 商品券によって期間中（9月～12月）のあなたの消費行動は例年と比べてどのような変化がありましたか？

（3）設問2-2でア「増加した」と回答した方にうかがいます。期間中の増加額はおよそお幾らだったと思いますか？

【回答結果】

回答件数は、10件。内訳は下記のとおりである。

- ① 10,000円・・・4件（40%）
- ② 50,000円・・・2件（20%）
- ③ 5,000円・・・2件（20%）
- ④ 20,000円・・・1件（10%）
- ⑤ 1,000円・・・1件（10%）

設問3-1 今回の商品券発行方式についてうかがいます。

(1) 1,000円券8枚（A券）と500円券6枚（B券）の設定はいかがでしたか。

- ア 適当な設定だったと思う。
- イ その他（具体的にご記入ください）

【回答結果】

回答件数は、34件。内訳は下記のとおりである。

- ア 適当な設定だったと思う。・・・30件（88%）
- イ その他（具体的にご記入ください）・・・4件（12%）

なお、「イ その他」の4件は、「お釣りが出ないことを考えるとA券も500円でもよかったと思う。（2件）」「B券が多すぎる（1件）」「大型店でもB券が使えるとありがたい（1件）」。

設問3-2 今回の商品券発行方式についてうかがいます。

(2) 地域商店街活性化のため、大型店で使用できないB券を6枚とした点についてうかがいます。

- ア B券6枚は適当な枚数であった。
- イ B券はもっと多くても良かった。
- ウ B券はもっと少なくても良かった。
- エ 店舗規模で使用の制約をするべきではなかったと思う。
- オ その他（具体的にご記入ください）

【回答結果】

回答件数は、30件。（無回答4件） 内訳は下記のとおりである。

- ア B券6枚は適当な枚数であった。・・・20件（67%）
- イ B券はもっと多くても良かった。・・・1件（3%）
- ウ B券はもっと少なくても良かった。・・・5件（17%）
- エ 店舗規模で使用の制約をするべきではなかったと思う。・・・4件（13%）
- オ その他（具体的にご記入ください）・・・0件（0%）

設問3-3 今回の商品券発行方式についてうかがいます。

(3)設問3-2でイ・ウと回答した方にうかがいます。B券は何枚が適当だったと思いますか？

【回答結果】

- ①「イ B券はもっと多くても良かった。」の回答件数は1件であったが、何枚が適当であったかというこの設問に関しては無回答。
- ②「ウ B券はもっと少なくても良かった。」の回答件数は5件であり、何枚が適当であったかというこの設問に関しては「4枚」が2件、「3枚」「2枚」「0枚」が1件ずつとなっている。

設問4 その他今回の商品券について、ご意見がありましたらお願いします。

【回答結果】

回答件数は、20件。(無回答14件) 内訳は下記のとおりである。()の件数表示のないものは1件。

- ①また実施してほしい。(6件)
- ②参加加盟店(特に飲食店)がもっとあってほしかった。(6件)
- ③商品券の残りの販売数がどこの店舗でどれ位残っているかが、HPなどでわかると買いやすかった。
- ④商品券が購入できる場所をわかりやすく表示願います。
- ⑤店員さんの対応もよく、また、前回より商品券が使いやすくなったのでお買い物に行くのが楽しくなった。

3 成果について

(1)今後の課題

今回の商品券は、B券を500円とした結果、幅広く小売店での使用が行われた。

アンケートによると、前回（平成21年度）と比較し、「売上増加」「今後も参加したい」が増加、「効果なし」「参加したくない」「どちらともいえない」が減少ということで、商品券事業の実施について、今後も期待していることがうかがえる。

広告宣伝・PR活動についても、早めに実施したがそれでも不足感があるとの指摘があり、市民・商店への周知が重要であることが実感される。

前回より商品券販売所を増やしたが、それでも少ないとの意見があり、川越市全域で販売出来る体制を整えなければならない。

商品券を換金する金融機関により、実際に個店に入金するまでの日数がかかった。事前の金融機関との調整が必要と思われる。又、商品券を数える場合手作業が多く時間がかかってしまう。機械で数えられるよう商品券の厚さを考慮することが検討される。

発行枚数・有効期間等の問題については、関係機関で調整が必要であり今後の検討課題といえよう。

(2)その他の効果等

事業としては、「新規の顧客獲得」「顧客とのコミュニケーション強化」「売上増加」「商店街の連携強化」との回答が全体の4分の3を占め、商品券事業は小規模小売店への消費誘導効果と、顧客・商店の繋がりへの支援策としては、一定の効果があったと思われるが、効果を感じていただけなかった店舗も4分の1あり、商品券に対する評価が分かれる結果となった。

4 総括

今回の商品券は前回の反省を踏まえ事業を実施したが、細かい部分まで行き届かなかった感じがある。

取扱店は前回よりも少ない372店舗（前回402店舗）で市内小売店の18%であり、商品券利用者にとっては取扱店が多ければ利用するとの声も聞かれた。今後は多くの小売店に取扱店として登録して頂く必要がある。

有効期間についても長期にとの意見もあり、年末・年始で利用できた方が良かったのではないと思われる。

連携の強い商店街では、参加店舗も比較的によく、商品券の使用割合も高い傾向があり、積極的に取組んだ商店街では大きな成果があったことがうかがえる。